

2011年11月15日(第11回)  
2011年度JLA中堅職員ステップアップ研修(1)  
領域2区分B

### レファレンスツールの評価 門上光夫(大阪府立中央図書館)

はじめに

図書館の資料は膨大/利用者のニーズは多様

図書館の資料:全分野(0門-9門)/大人向けから子ども向けまで/過去からの蓄積

利用者のニーズ:全分野(0門-9門)/大人から子どもまで/必要とする情報の精粗

これを知ればすべて大丈夫、絶対評価を得られるレファレンスツールはない

日々研鑽を積んで、「よいレファレンスツールとは何か」を体得していくもの

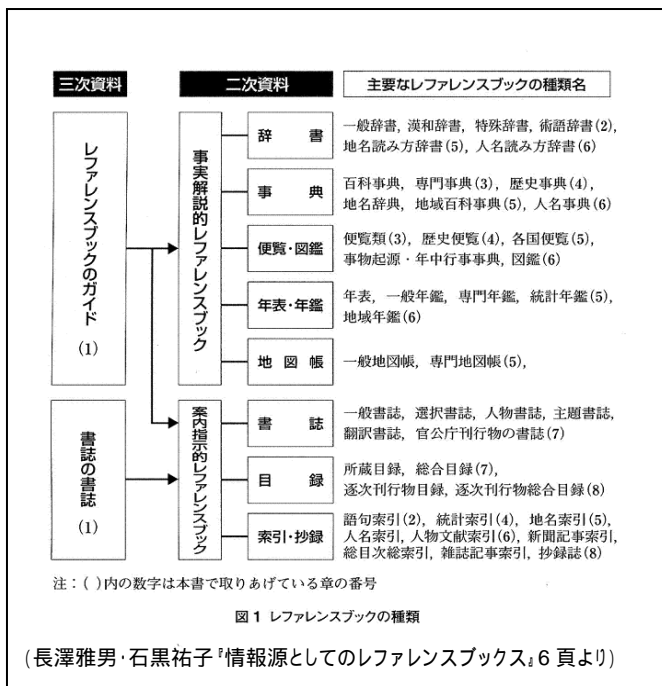
本講義の目的: 日常業務の実体験の中から、よい「レファレンスツール」とは何か、に「気づく」  
それぞれの図書館でみなさんがレファレンスの際に工夫していることを引き出す  
その工夫をここにいる全員のものにして、レファレンス力の向上につなげていく

レファレンスツールの評価とは

1 レファレンスツールとは

レファレンスツール

= 膨大な図書館の資料や情報と多様な利用者のニーズを結びつけるツール(道具)。



参考図書:いわゆる辞典・事典類  
(事実解說的)および目録類(案内指示的)

インターネット情報

自館作成ツール:各館が必要に応じて作成した目録類やパスファインダー

本日はこのうち、参考図書とインターネット情報について考える

## 「レファレンスツールの評価」(門上光夫)

### 2 評価の目的と基準

図書館におけるレファレンスツール(レファレンスブック)の評価の目的

図書館において適切なレファレンス・コレクションを構成するため

「評価に際しては、既存のコレクション中の個々の図書の情報的価値と利用者の要求とを十分に勘案しなければならない」(長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブックス:新版』15頁)

#### レファレンスツールの評価の基準

膨大な図書館の資料や情報と多様な利用者のニーズを「効率よく効果的に」結びつけることができるかどうか。

「効率よく効果的に」結びつけることのできるツールがよいレファレンスツール

日頃の業務でよく使う参考図書およびインターネットサイト

1 事前課題の結果から( 支持率は受講生中何名の支持を得た参考図書またはサイトを示しています)

日頃の業務でよく使う参考図書(上位5位:詳細は【参考資料1】)

順位	書名	出版者	得票数	支持率
1位	『広辞苑』	岩波書店	12票	32.4%
2位	「地元の自治体史誌」		10票	27.0%
3位	『総合百科事典ポプラディア』	ポプラ社	7票	19.0%
	『大漢和辞典』	大修館書店	7票	19.0%
4位	『国史大辞典』	吉川弘文館	6票	16.2%
	『日本国語大辞典』	小学館	6票	16.2%
	『世界大百科事典』	平凡社	6票	16.2%
5位	『現代用語の基礎知識』	自由国民社	5票	13.5%
	『角川日本地名大辞典』	角川書店	5票	13.5%

(37名 全票数 91票 うち、回答なし1)

「レファレンスツールの評価」(門上光夫)

日頃の業務でよく使うインターネットサイト(上位5位:詳細は【参考資料2】)

順位	書名	出版者	得票数	支持率
1位	国立国会図書館ホームページ レファレンス協同データベース NDL-OPAC リサーチナビ 調べ方案内 ゆにかねっと 雑誌記事索引 国際子ども図書館児童書誌総目録	http://www.ndl.go.jp/	21票 6票 3票 2票 1票 1票 1票 1票	56.8%
2位	Google	http://www.google.co.jp/	14票	37.8%
3位	国立情報学研究所 Webcat Plus CiNii GeNii Webcat	http://www.nii.ac.jp/	8票 4票 2票 1票 1票	21.6%
4位	amazon	http://www.amazon.co.jp/	6票	16.2%
5位	ウィキペディア	http://ja.wikipedia.org/wiki/	5票	13.5%

(37名 全票数102票)

2 日頃の業務でよく使う参考図書・サイト、その理由

['理由』の使用語彙の分析から]

使用した語彙	図書	サイト	計	使用した語彙	図書	サイト	計
わからない(時に)	8	6	14	参考文献	2	0	2
とっかかり	4	3	7	網羅(的)	7	1	8
まず理解	1	0	1	豊富	3	4	7
とりあえず	4	5	9	幅広い	2	0	2
手がかり	2	3	5	正確	1	1( )	2
ヒント	2	5	7	信頼	1	3( )	4
ステップ	1	0	1	相互貸借	0	9	9
次に	4	2	7	新刊(書)	0	10	10
出典	2	0	2				

( )「100%正確ではないが」「100%信頼できないが」等で使用

ここから、よく使う参考図書やサイトは

「手がかりが得られるもの」又は「調査の次のステップに進めるもの」

それは「網羅的で情報量の豊富な参考図書やサイト」

書誌事項とその所在が得られるもの

郷土関係の情報の載ったもの

## 「レファレンスツールの評価」(門上光夫)

<参考>わたしが選んだレファレンスブック・ベスト10(2008)

第10回図書館総合展併設フォーラム 日外アソシエーツ特別企画アンケートによる。  
図書館司書に対して日常よく使うレファレンスブック(「これはお奨め」という資料)10点を挙げて、短評をとったもの。活字媒体の資料に限定し、「分野別チェックリスト」に載った資料から選んでも、自由に書き込んでもOK。

順位	書名	出版者	コメント	
1位	『国史大辞典』	吉川弘文館	参考文献が充実している。	4
2位	『日本国語大辞典』	小学館	あらゆる言葉が引ける。	4
3位	『大漢和辞典』	大修館書店	出典がわかる。漢字の点数が多い。	3
4位	『日本大百科全書』	小学館	参考文献付。困った時、初動調査に。	
5位	『理科年表』	丸善	自然科学がトータルに記述。	
6位	『角川日本地名大辞典』	角川書店	広く全国の地名がカバー。	5
	『国書総目録』	岩波書店	近世以前に日本で刊行されたものがわかる。	
7位	『世界大百科事典』	平凡社	とっかかりが欲しいときに便利。	4
	『広辞苑』	岩波書店	1冊に掲載されている情報量が多い。	1
8位	『人物レファレンス事典』	日外アソシエーツ	自分が知らない人物のときに役立つ。	
9位	『日本統計年鑑』	日本統計協会	基礎統計資料がほとんど載っている。	
10位	『現代用語の基礎知識』	自由国民社	疑問に思ったらまずひける簡単さがよい。	5

[http://www.reference-net.jp/my\\_best10b.html](http://www.reference-net.jp/my_best10b.html)

右端は課題での順位。 は1票でも入っていた参考図書

! 日頃よく使うレファレンスツールがよいレファレンスツールであることを経験的に知っている。

### 3 レファレンスツールの評価(長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブックス:新版』から)

評価に関わる三要素

製作に関わる要素:編著者/出版者/出版年

内容に関わる要素:範囲の設定/扱いかた/項目の選定/排列方法/検索手段/収録情報の信憑性

形態に関わる要素:印刷/挿図類/造本

### 4 レファレンスツールの限界

どこまでしか調べられないかを知ることも重要な「評価」

## 「レファレンスツールの評価」(門上光夫)

意外な時に使えた参考図書およびインターネットサイト

意外な時に使えたレファレンスツール 日頃の業務でよく使うレファレンスツールに

・意外な時に使えた参考図書(詳細は[参考資料 3])

『総合百科事典ポプラディア』2票 [よく使う]7票(3位):相続

『世界大百科事典』 [よく使う]6票(4位)

『日本国語大辞典』 [よく使う]6票(4位):さつま

・意外な時に使えたインターネットサイト(詳細は[参考資料 4])

(国立国会図書館ホームページ)6票 [よく使う]21票(1位):日本占領関係

(Google)3票 [よく使う]14票(2位):Google books

(ウィキペディア)2票 [よく使う]5票(5位):中津川事件/ホイッスラー/屯の聖母

(楽譜ネット)4票 [よく使う]4票(5位入賞外)

合わせて8票。支持率 21.6%

おわりに

よい「レファレンスツール」とは、

・日常業務の中でレファレンスを経験して研鑽を積んでいくもの。

・経験的によいレファレンスツールを選択している。

基本的にはよく使うレファレンスツールがよいレファレンスツール。

・レファレンスツールの評価

・レファレンスツールの限界を知ること。

レファレンスの際に工夫していることは、

・ において、他の図書館や図書館員がどのようなツールを使ってレファレンスサービスをしているか、エピソードを交えて報告

レファレンス力の向上につなげていく

・レファレンス技術や能力アップ、活用技術に役立ててもらえたか？

レファレンスはチームプレー。わからなければ、聞く。

研鑽は館全体のものに。

各館のレファレンスコレクションの一層の充実に活かす

限られた予算の中で適切なレファレンスツールを選択する考え方を得る

自館作成ツール(パスファインダー)の作成の目安として役立てる

## 【参考文献】

『情報源としてのレファレンスボックス:新版』(長澤雅男・石黒祐子/著 日本図書館協会 2004.5)

レファレンスに関する参考になる図書については、【参考資料 5】を参照。